

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
15

振興協議会だより

【発行日】平成27年10月26日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600

学術研究奨励事業

苗場山麓は、多様な地層によって構成される山麓地帯であり、そこに降り積もる雪を背景に標高階層別に生態環境が形成されています。私たちは、地形・地質を基盤として広がる生態環境を指して「自然環境」と呼んでいます。まさしくジオパークは自然環境の保全活動を通して、その仕組みや素晴らしさを学ぶ学習の場です。

私たち人類は、この自然環境と向き合い、自然界を資源と認識し、身体技術を巧みに使い、資材化あるいは食品化し、豊かな物質文化生活を築き、現在に至りました。

苗場山麓は、多雪環境において営まれた歴史文化を保有し、世界に類を見ない雪国文化を形成してきました。その時間も世界に類を見ない長さであり、3万年前の旧石器時代から、森と共生した縄文時代を経て、今日まで営々と雪国文化のバトンリレーを継続してきました。

すなわち、「ジオ」＋「エコ」＋「カルチャー」の理念が、ジオパークの基盤にあり、その学術的内容を深化・深耕することが望まれています。その深耕による新しい発見と理解、そして解釈を平易な言葉に置き換え、時には絵や漫画に変換し、より多くの地域住民や苗場山麓を訪れる人々に伝える義務が私たちにあります。

振興協議会では、苗場山麓ジオパークを構成する要素である、ジオ・エコ・カルチャーに焦点を置き、様々な視点で調査研究を継続的に進めたいと考えています。また、学術指導委員会の先生方からも調査研究の持続と深化を指導されてきました。

平成27年度から苗場山麓をフィールドとした調査研究を支援する「学術研究奨励事業」を展開することとし、1月に事業要項の配付、3月には申請書取りまとめ、5月には学術指導委員会において書類審査を行いました。その結果、下記の方々に助成することが決定しました。

【研究者と研究内容一覧】

氏名(敬称略)	所属	研究の名称	テーマ
肖 鋌	北海道大学大学院文学研究科	苗場山麓ジオパークにおけるジオツーリズムの展望—日本と中国の事例から—	苗場山麓ジオパークにおけるジオツーリズム展開の可能性
中澤 謙吾	小滝復興プロジェクト	小滝四ツ廻りの研究・調査	ジオサイトNo.54(小滝四ツ廻りの運河跡)周辺の多面的調査・研究のための現況測量と図面の作成
宮西 萌	近畿大学大学院農学研究科	苗場山麓ジオパーク周辺水域における希少淡水魚類相	絶滅危惧種シナイモツゴの生息現況調査
大杉 周	信州大学大学院総合工学研究科	苗場山麓の森林植生ごとのシダ植物の分布と種構成について	苗場山麓の森林植生ごとのシダ植物の分布と種構成について
山縣 耕太郎	上越教育大学社会系教育講座	信濃川河成段丘を覆う風成塵堆積に基づく古環境の復元	信濃川河成段丘を覆う風成塵堆積に基づく古環境の復元
速水 裕樹	日本大学大学院 生物環境科学研究科	苗場山麓の火山性台地上に見られる半自然草原を対象とした植生学と景観的価値の評価に関する研究	苗場山麓の火山性台地上に見られる半自然草原を対象とした植生学と景観的価値の評価に関する研究
涌井 泰二	菅沼を考える会	津南町菅沼集落の地形・地質・植生・歴史文化の研究	津南町菅沼集落の地形・地質・植生・歴史文化の研究
黒岩 寛明	飯山高등학교	津南町における段丘礫層の研究	津南町における段丘礫層の研究

現在、苗場山麓をフィールドに、その対象を鋭く観察する調査研究が展開しています。

研究実績報告書の提出は、平成28年1月末とし、その後、振興協議会で開催する発表会での報告や、教育委員会で発行している『津南学』への掲載、ホームページやジオパーク拠点施設で閲覧できるようにする予定です。

スマートフォン、タブレットのアプリケーションに苗場山麓ジオパークが登場！



日本ジオパーク ナビアプリ「ジオパークぶらり」に、苗場山麓ジオパークが追加されアップデートされました。57のジオサイトの写真や解説のほか、津南町と栄村の飲食店・宿泊施設・お土産店・民俗資料館などの情報が満載です。インストールしておくと便利です！

Apple版とAndroid版 ともにスマホ&タブレットで使用可能ですので、皆さんどんどん活用して下さい。アプリケーションストアで「ジオパークぶらり」で検索してください。もちろん無料！

認定ガイドが活躍しています！



一般の旅行者（個人・団体）や他のジオパークからの視察、学校関連など苗場山麓ジオパークのジオサイトを巡るツアーが増えています。ジオサイトを1～2か所訪れるものから、丸1日いくつものジオサイトを巡るツアーまで様々です。その際、ガイドの依頼を受けることが多く、認定ガイドの皆さんが大活躍しています。

先の9月30日には、4団体合計100人あまりの方が来訪され、それぞれにガイドさんがつき苗場山麓ジオパークを楽しんでいただきました。皆さん、ジオサイトを見るだけでなく、ガイドからその成り立ちや特徴を聞いてより興味がわいた、他のジオサイトも次回巡ってみたいと話されます。これから冬を迎えますが、雪が特徴である苗場山麓の冬を体感し楽しんでいただけるツアーづくりも進めていきたいと思います。 ガイドの依頼・お問合せは津南町観光協会 ☎025-765-5585まで

苗場山麓ジオパークには、素晴らしいトレッキングコースがたくさんあります！



ジオエッグ（ジオパーク支援隊）およびジオパーク推進室・栄村により、古道やトレッキングコースの状況確認が進んでいます。同時に、草木が繁茂し通行しづらい箇所などは、草刈や倒木の処理など整備を行っています。

特に秋山郷地域には、草津街道など当時の面影を残す素晴らしい自然歩道があり、自然観察などしながら気軽にトレッキングを楽しむことができます。およそ200年前、この草津街道を鈴木牧之が歩いたことを想像しながら歩くのも趣深いのではないのでしょうか。

絵解きジオパーク イラスト：鈴木夏海



ここは中津川右岸の上野原地区に所在する「小さな池」です。この池の端にたたずみ、覗き込んでいるおじさんは、何を見ているのでしょうか？

苗場山麓ジオパークジオサイトマップ

分かりやすい地図に57のジオサイトと、その解説を掲載したジオサイトマップが完成しました。10月末には、英訳版も完成する予定です。

このマップを片手に、ドライブがてら苗場山麓をめぐってみてはいかがでしょうか？



ジオサイトマップをご希望の方は、栄村・津南町の観光協会、農と縄文の体験実習館なじょもんまで。

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

結東の石垣田



所在地 津南町結東

種別 文化

結東集落の北側には、全国農村景観百選にも選ばれている美しい石垣田が広がっています。開墾が始まったのは明治25年（1892）頃、長い年月と労力をかけて築かれた石垣は、鳥甲山と苗場山の溶岩（柱状節理）の崩れた岩石を利用しています。石積みの高さは高いものになると3mもあり、村人の苦労が容易に想像できます。現在は、周囲の農道が狭く大型機械が入れないため農作業が大変なことや村人の高齢化もあり耕作されない田んぼが多くなってきています。そのため、保存会が発足し住民と協力しながら保全活動を行っています。

この石垣田のすばらしさを多くの人に知ってもらうため「けつとの灯影」と題し、田植え後の石垣田に2,000本のキャンドルを灯し、からす踊りなどで春の宵を楽しむイベントも毎年開催されています。

また、溶岩壁下部には風穴が点在していて、エゾヒョウタンボクなど希少な植物が生育しています。ジオ・エコ・カルチャーが融合した素晴らしいスポットです。

草津街道



所在地 津南町・栄村

種別 文化

草津街道は、中津川に沿って南北に走る街道です。中津川と信濃川が合流するところから、中津川の源流である野反湖・草津温泉まで続いています。見倉トンネルの外側（中津川側）に道のなごりが確認され、和山の大畠からは、エラクボ平の下を通り、檜俣川を渡り、九十九曲がりを上り、佐武流川を渡って、渋沢まで進み、山道に入って野反湖までの道のりです。和山の街道入り口には、「安政三年辰八月」の彫りのある馬頭観音がたっていました。（現在その馬頭観音は、和山の観音堂に安置されています）

かつては、信濃川の鮭を草津温泉まで運ぶために、多くの往来があったと言います。

鈴木牧之は、この草津街道を通って見玉から湯本（現在の切明）まで旅をしています。

また、中世には、官道・軍道として、日本海（上越市高田）から関東地域へ抜ける重要な街道であったと考えられています。

現在は、雑木が生い茂ったり土砂くずれなどで寸断されたりした箇所もありますが、所々にその面影が残されています。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

APGN(アジア太平洋ジオパークネットワーク)山陰海岸シンポジウム「JGNガイドフォーラム」に参加して

9月15日(火)・16日(水)の2日間、京丹後市(京都府)にて標記のフォーラム(討論会)に参加しました。

1日目、開会式後、佐渡や阿蘇など9ジオパークからバーチャルジオツアーの発表が行われました。映像を見ながらガイドの説明を聞き、ツアーの気分を味わうという企画でした。近年、地形・地質を中心にしたジオサイトの説明だけでなく、植物や動物そして歴史を折りこみ、総合的なガイド説明が普通になってきているとのこと。当ジオパークにおいても、ジオサイト巡りの楽しいシナリオ作りが急務だと感じてきました。

2日目の午前中、「お客様の満足度を上げる工夫」のテーマで、KJ*法で話し合いが行われました。ポイントは、①しゃべり方、②安全管理、③ツール(用具・道具等)について、様々な意見を拝聴することができました。

午後は、「京丹後市のジオサイトを巡る」ジオツアーに参加しました。バス内でのガイドと各ジオサイト巡りのガイドとの連携がよくできていて、この地にはじめて来た我々にもわかりやすい案内でした。来年、平成28年7月に同フォーラムが新潟県(市)で開催される予定ですが、ガイドフォーラムについての道筋が少し見えたように思いました。

*『KJ法』とは、各自が考えや意見などを付箋に書いたものを持ち寄って模造紙に貼り付け分類し、グループ内で発表し合い新しい発想を生み出す討議方法。



琴引浜(鳴砂)

この指とまれ!のみんなと見玉公園探検!



9月14日、この指とまれ!の子どもたちと見玉公園を探検しました。石落しの絶壁を観察したあと、散策道を進み中津川下流が見渡せる広場で遊びました。ユキツバキの葉笛に挑戦したり、ハコズミなどの木の実を食べてみたり、ブナ林を走り回ったり、毒キノコを教えてもらったり。休憩には、見玉公園内にたくさん生育しているクロモジの葉っぱをみんなで摘んでクロモジティを作って飲みました。帰り道には、イタヤカエデの王様(大木)の幹周りをみんなで手をつないで測ってみたりと、1時間があっという間に過ぎてしまいました。11月には、見玉不動尊周辺を探検する予定です。

浅間山麓国際自然学校から講師をお招きしてガイド研修が行われました

第2回目のガイド研修は、文化センターにて浅間山麓国際自然学校の橋詰元良氏をお招きし、自然学校の活動や自然保護と観光との持続可能な両立についてご講演いただきました。

浅間山麓国際自然学校は、民間企業が親会社として、群馬県嬬恋村、長野原町、長野県軽井沢町、御代田町、小諸市、東御市の6市町村と林野庁、環境省とで設立されたNPO法人です。新たな観光、体験・体感、環境問題や農業の大切さなど新たな価値観を見出し紹介することを目的として設立されました。

活動は、環境教育、環境保全、人材育成、体験活動など多岐に渡り、インタプリター*によるエコツーリズム、ジオツーリズムを推進しています。「保護と利用は相反し、それを繋ぐのがインタプリターと位置付け、お客様に楽しんでもらうことを第一」としています。保全に関しては、国立公園内の環境省と連携しています。

お客様対応の1番のお手本は、「ディズニーランド」のスタッフだそうです。また、安全管理、下見、準備、仕掛けなどが重要で、特に仕掛けは、毛皮、骨、噴石など本物を触り体感してもらうことでより印象に残るガイドを目指しているそうです。ガイドには一工夫が必要なことを学んだ研修でした。

*『インタプリター』とは、自然と人との橋渡し役。自然が発するメッセージを一般の人々にわかりやすく伝える専門家



橋詰氏

絵解きジオパーク その答えは

苗場山麓ジオパークサイトNo.37に登録されている標高約980mに位置する「天池」です。この池近傍の斜面地はかつて焼畑をした耕作地でした。その耕作地は現在、植生遷移の過程でシラカンバの林に変わっています。このような自然環境を背景に天池は、モリアオガエルの産卵地として有名です。また、晴れた日には近傍の鳥甲山が、池の水面に映ることで、そのシャッターチャンスめがけ多くの写真愛好家が訪れるビューポイントです。このおじさんも美しい秋の一瞬を水面を通してカメラでとらえ感動しているのでしょう。